

北海道教育大学附属札幌中学校

Sapporo Junior High School Attached to Hokkaido University of Education

学校説明会

学校説明会

司 会：主幹教諭 新井 拓

- | | | | |
|---|----------------|---------|-------|
| 1 | ご挨拶 | 副校長 | 太田 和幸 |
| 2 | 本校の教育について | 教務主任 | 佐藤 敦 |
| 3 | 本校の研究について | 研究主任 | 杉本 泰範 |
| 4 | 生徒活動について | 生徒指導部 | 高村 克徳 |
| 5 | 授業の様子について | | |
| 6 | 入学者選考日程等について | 入学者選考担当 | 山田 浩之 |
| 7 | 教育後援会(ふじづる会)から | | |
| 8 | 質疑応答 | | |



2021
08.28 (Sat.)

はじめに

北海道教育大学附属札幌中学校（以下、本校）は、昭和 22 年に北海道学芸大学の附属中学校として開校し、平成 28 年に開校 70 周年を迎え、札幌市のどの公立中学校よりも古く、普通中等教育を行う伝統ある学校です。あいの里地区には、昭和 63 年に中央区（現在の中央図書館）から移転しました。藤の花は、学校の花として「わが學園」（校歌）でも歌われ、私たち附属に通うものが大切にしている花です。校舎入口の藤棚は、あいの里の校舎移転に伴い、前の校舎より移植したものです。そして、藤の花の色である「紫」はスクールカラーとなっています。

校舎は、北海道教育大学札幌校、附属札幌小学校やふじのめ学級とキャンパスを共にし、教育研究や実践について連携や協力をしながら学校教育を行っています。卒業生は 9,000 名を超え、高等学校や大学への進学後、政治や経済、医療や教育など様々な分野で活躍しています。



本校の 3 年間で生徒の力として育成を目指すものは、基礎的・基本的な学力の習得はもちろんですが、以下の学校教育目標を掲げ、豊かな人間性の育みを目指しています。

学校教育目標

- | | |
|------|----------------------------------|
| 【清新】 | いつも生き生きと、心とからだをはたらかせましょう。 |
| 【進取】 | なにごとにも積極的に、自ら進んで取り組みましょう。 |
| 【斉正】 | 品位と正義を重んじ、けじめのある中学校生活を送りましょう。 |
| 【親和】 | 人々との交わりに喜びをもち、ともに向上することをめざしましょう。 |

本校は、国立大学法人の附属学校であることから、教育実践研究を推進しながら、文部科学省が示す学習指導要領をもとに、普通中等教育を行う教育課程を編成しています。よって、学習内容や各教科等の時数は公立学校と同様ですが、開校以来、教育研究の視点を踏まえ、学校で学んだことがこれからの社会に必要とされる資質や能力につながるよう、あるいは、将来にわたって生きて働く資質や能力となるよう、授業や教育課程を編成しています。

附属学校の特色

本校は、北海道教育大学の附属学校として、公立学校とは異なり、次のような特別な役割があります。毎月のように、大学教員や学生、教育委員会や学校教員など、多くの教育関係者が来校し、授業を見学します。

【教育実習校として、実習生を受け入れる役割】

- ・次代を担う教育大学生の教育実習を大学と連携して実施しています。大学1年生の基礎実習や、大学3年生の教育実習のほかに、教育実習の事前指導、教職大学院生の教育研究実践実習や教員採用直前実習などがあります。

【教育臨床実践校として、大学との研究連携の役割】

- ・大学と連携して、授業の在り方を検討したり、より適切な教具や教材を開発したりしています。また、大学教員を招いての研究授業等を行ったり、附属学校において実践的な立場から検証を試みたりします。大学の教員養成のための授業が本校で行われ、授業分析なども行っています。

【教育研究学校として、教育の理論と実践の統合的研究を進める役割】

- ・校内研究会を定期的実施し、今後の教育の在り方や、授業方法について検討し、その結果を毎日の授業に活用しています。また、附属小学校やふじのめ学級、道内外の他附属学校とも研究の連携や協力を行っています。

【地域のモデル校として、実践研究の成果を発表する役割】

- ・先進的、先導的な教育活動を推進し、教育関係者に研究の成果を発信します。今年度は中止となりましたが、例年7月末に行う教育研究大会には、全道や全国から500名ほどの教育関係者が本校に来校します。

昨年度は教科別の授業湖研究会をオンラインで行いました。



また、本校のこれまでの実践や、附属学校の特色から、以下のような特色もあります。

- 通学区域を札幌市全区とし、多くの生徒が公共交通機関を利用する広域通学であること。
- 入学者選考を実施し、入学者を決定すること。
- 学校教育の原点である「学び」を大切に、他者との関わりや学び合いを重視した授業を展開すること。

教育課程の概要

本校の各教科等の時数は、学習指導要領で示される通り、以下の通りに編成しています。本校は、必修教科の時数確保に加え、道徳科や特別活動（学級活動や生徒会活動など）、総合的な学習の時間においても大切にすることが、学校教育目標や求める生徒の姿の達成につながるものと考えております。

令和元年度

区分	教科										計	特別の教科	領域		計	合計
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技家	英語	道徳		学活	総合			
第1学年	140	105	140	105	45	45	105	70	140	895	35	35	50	120	1015	
第2学年	140	105	105	140	35	35	105	70	140	875	35	35	70	140	1015	
第3学年	105	140	140	140	35	35	105	35	140	875	35	35	70	140	1015	

文部科学省内に設置された中央教育審議会が検討している高大接続に向けた改革の一環として、大学入試改革の方向性が示されました。2020年以降、大学入試が大きく変わり、センター試験が廃止され、大学入学共通テストが実施されます。この大学入学共通テストは、思考力・判断力等が問われる内容となっています。特に、「自ら課題を発見し、答えが一つに定まらない問題に解を見出していくために必要な諸能力」が重視され、それらの諸能力を評価する作問が、各教科・科目について検討されています。また、他の教科・科目や社会との関わりを意識した内容など、教科を越えて知識・技能を活用することが求められる出題も想定されています。こうした社会的な流れを踏まえながらも、学力の三要素（基礎的・基本的な知識・技能、知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力、人間性）をバランスよく育み、道徳科や特別活動、総合的な学習の時間を大切に教育課程を編成しています。

総合的な学習の時間は、変化の激しい社会に対応して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることなどをねらいとしています。各学年の総合的な学習の時間の名称を「リアライズ（1年生）」、「リフト（2年生）」、「リレイト（3年生）」とし、各教科での学びを活用しながら、探究的な学習を実践しています。

特別の教科 道徳については、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことをねらいとしています。また、発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考え、議論する道徳」を実践しています。

基本日課について

基本日課表

北海道教育大学附属札幌中学校

《 6 時間日課 》		《 5 時間日課 》	
朝の会	8:35 ~ 8:45	朝の会	8:35 ~ 8:45
1校時	8:55 ~ 9:45	1校時	8:55 ~ 9:45
2校時	9:55 ~ 10:45	2校時	9:55 ~ 10:45
3校時	10:55 ~ 11:45	3校時	10:55 ~ 11:45
4校時	11:55 ~ 12:45	4校時	11:55 ~ 12:45
給食準備	12:45 ~ 13:00	給食準備	12:45 ~ 13:00
給食	13:00 ~ 13:20	給食	13:00 ~ 13:20
昼休み	13:20 ~ 13:40	昼休み	13:20 ~ 13:40
5校時	13:45 ~ 14:35	5校時	13:45 ~ 14:35
6校時	14:45 ~ 15:35		
帰りの会	15:40 ~ 15:50	帰りの会	14:40 ~ 14:50
清掃	15:50 ~ 16:10	清掃	14:50 ~ 15:10
下校バス	~ 16:20	下校バス	~ 15:20
放課後活動	~ 16:50	完全下校	

部活動について

部活動は、土・日・祝日に行われ、広域通学により帰宅時間が遅くなることから、平日にはありません。また、現在、設立していない部においては、スキーや水泳、陸上競技などの個人種目であっても、中体連が主催や後援する大会に参加することはできません。（新たな部の新設もできません）

《今年度の開設の部活》

- ・卓球部 ・ソフトテニス部 ・サッカー部 ・バドミントン部 ・バスケットボール部
- ・合唱部 ・美術部

保護者との連携について

本校は、保護者向けの授業参観日に加え、学校祭や合唱祭、総合的な学習の時間の発表会など、生徒の学びの姿を直接見ていただく機会を多く設定しています。定期的に生徒の姿をご覧いただくことで、一人一人の成長を保護者の目で実際にご確認いただくことができます。また、PTA 学年懇談会、PTA 学級懇談会、三者懇談、進路説明会など、本校教員と直接相談や会話ができる機会を定期的に設けています。特に、PTA 学年懇談会では、修学旅行などの旅行的行事や、普段の学校の様子などを保護者にお伝えしています。

通学の交通機関について

■中央バス→地下鉄南北線・麻生駅 発優先便 【夏季所要時間：麻生駅から約 35 分】

イオン隣接の麻生ターミナルより発車しています。

①附属中学校の優先便は7時25分、7時37分、50分(小中共通)です。(30分は路線便)

附属小学校の優先便も別の時間にあります。

②優先便は、途中乗車(登校時)、途中下車(下校時)が可能です。

■中央バス→地下鉄東豊線・栄町駅 発優先便 【夏季所要時間：栄町駅から約 35 分】

①7時35分、7時40分(45分は路線)の便に乗車することになっています。

②直行便ではありません。附属小学校の児童も乗車します。

■JR学園都市線 【夏季所要時間：札幌駅から約 26 分】

下車駅は「あいの里教育大駅」です。駅から本校までは徒歩で約20分です。

駅前から中央バスの優先便(8時00分、20分)を利用することもできます。

■中央バス(北札苗線) 【夏季所要時間：札幌駅から約 40 分】

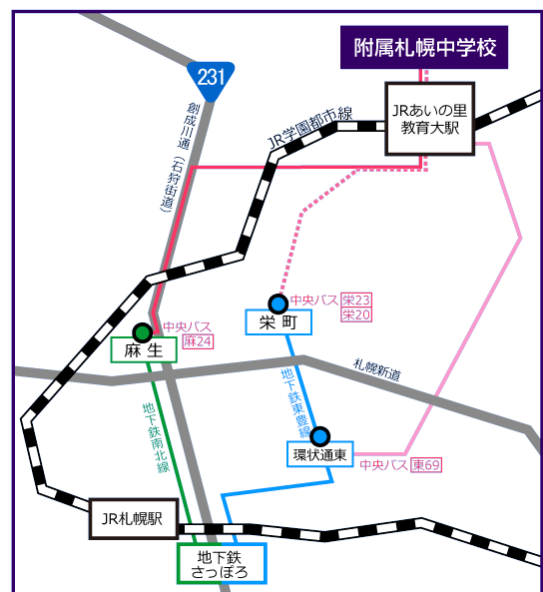
始発は、「地下鉄東豊線・環状通東駅」、終点は「JR あいの里教育大駅」です。

■徒歩で通学

※自転車を利用した通学は認めておりません。

※通常は、自家用車での送り迎えも、特別な場合を除いて認めておりません。

現在は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を鑑み、保護者の方が可能な場合は、自家用車での送迎をお願いしております。



入学に関わる経費について

- 授業料、入学金は一切かかりません。
- 給食費、教材費、P T A会費等の諸経費は、今年度の1年生では月額9,100円です。
- 諸行事にかかわる経費、一部の教材については、その時期に別途徴収いたします。

【各学年の旅行的行事にかかわる経費】（金額は今年度のもの）

- 1年 札幌市内での校外学習
→ 今年度は、モエレ沼公園への遠足を実施
- 2年 校外宿泊学習
→ 今年度は、小樽での炊事を伴う宿泊学習の予定
- 3年 修学旅行 沖縄（2泊3日） 約97,000円
→ 今年度は、道東方面への修学旅行を実施

- 制服は男子女子共に40,000円程度です。6月末ころから9月末ころまで夏服期間となります。それ以外の期間は冬服期間です。
- 体育着（ジャージ、Tシャツ、ハーフパンツ）と上靴は、学校指定です。合計で27,000円程度となっています。
- 教育後援会「ふじづる会」があります。

附属札幌中学校の「研究」について

研究主任 杉本 泰範

附属札幌中学校の役割

本校は、大学の附属学校としての役割の一つである教育実践研究を行っています。学校に通う生徒の学びがよりよいものになることを研究の目的とし、さまざまな教育に関する理論に基づき、実践を重ねています。北海道教育大学・北海道教育大学教職大学院をはじめ、他大学の研究者と協力しながら、また、文部科学省や国の機関との情報交換などを行いながら、社会の変化や要請に応じた教育を模索し、日本の学校教育の将来を見据えた取組を進めています。そして毎年7月に開催される教育研究大会において、本校生徒が生き生きと学び合う姿を通して研究の成果を発表しています。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、昨年度から「公開授業研究会」と名称を変えて新しい形で実施しておりますが、平日の開催にも関わらず、札幌市内や道内はもとより全国各地から300名ほどの方々が参加しています。



また、次代の教育を担う大学生に対する教育実習校としての役割や、地域のモデル校として先進的・先導的な教育活動を推進し、その成果を地域へ発信する役割なども担っています。

附属札幌中が大切にしている学びとは

本校では、伝統的に「学び合い」という言葉を大切にした授業を行っています。「学び合い」とは、互いに意見をぶつけ合ったり、誰かの発言をきっかけに自分の考えを見つめ直したり、互いに考えを出し合うことで新たな考えを生みだしたりするといった、仲間との関わりに支えられた学びのことです。生徒の一人一人のもつ自由な発想を大切にし、教師－生徒、生徒－生徒という関わりの中で、生徒が自ら授業を築き上げ、互いに高め合っていく創造的な学びを行っています。そのため、自他の考えや価値観に影響を与え合う相互作用が発生し、1つの習得すべき事項を様々な視点から捉えてより深い理解へ達します。また、自他の成長に向け、他者と関わることの大切さを感得し、生涯にわたって生きて働く学力の定着につながります。

この対局にある学びの形態が知識伝達型の授業です。教師が教科書の内容を一方向的に伝え、生徒はその定着のために反復的な練習をするイメージです。短期的にはペーパー型の試験の点数向上などにつながりますが、数年を経ると、内容だけでなく、その内容の意義などもすべて忘れてしまいます。

本校が目先の高校受験にとらわれるのではなく、「学び合い」を大切にした授業を行っている理由は生徒が将来にわたってどのように育ってほしいか、という願いを生徒に常に持ち続けているからです。だからこそ本校では、何よりも生徒自身がどの授業においても、生き生きと、活発に意見を出し合いながら、「自ら授業を作る」という姿勢を大切にしており、この姿勢は様々な行事や委員会活動でも発揮さ

れています。そして卒業後も、「附属の授業は本当に楽しかった」「考える力が身についた」「また附属の授業を受けたい」と言った声が卒業生から聞かれます。

現在の児童・生徒が中核を担う 21 世紀の社会は、「知識基盤社会」と呼ばれたり、人工知能（AI）に代表される一層の機械化・自動化が雇用のあり方にまで大きな変化をもたらすと言われたりしています。今年度より中学校で全面实施となった学習指導要領では、このような未来社会現在の児童・生徒が力強く生き抜くために、「何を知っているか」だけでなく、「何ができるようになるか」を重視し、学校教育を通じて児童・生徒に育んでほしい資質・能力を整理しています。つまり、現在の学習指導要領と同様の理念は、本校では以前から大切にし続けてきたものと言えます。また本校は、現状に甘んじることなく、本校生徒の現状や社会の状況を踏まえ、生徒がさらによりよく育まれる「学び」を更新し続けられるよう、私達教員も附属学校の役割の 1 つである「研究」をベースとして、日々模索しています。



● 現在行っている研究について

昨年度から、次のような研究の目的を設定しています。

研究の目的 自ら判断・行動し、未来の創り手となる個の育成

生徒への願い 将来にわたり、一人一人が考え、判断し、自信をもって行動し、他者と協働しながら創造し続けようとする生徒になってほしい。

現在の子どもは、判断の根拠や理由を明確に示しながら自分の考えを述べることに課題があり、自分の判断や行動がよりよい社会づくりにつながるという意識が低いと言われています。現在の本校生徒は互いのよさを活かし合い、仲間と共に問題を解決することの価値を強く実感しており、自らをさらに向上させたいという強い思いをもっています。一方で「自分の学びが仲間に影響を与えるという自信や実感をもつことができていない」という、課題が見受けられます。そのため、これは現代社会全般の問題であると言えます。

そこで、本校生徒が今以上に自分自身の考えに自信をもち、自ら率先して行動できるようになると、一人一人がさらに成長し、学び合いもさらに高まるということだけでなく、将来にわたり、一人一人が考え判断し、自信をもって行動し、他者と協働しながら創造し続けようとする生徒になってほしいという願いを込め、現在の研究の目的を設定しました。

これまでの取組の成果や課題から、真の意味で生徒が生きた知識を身に付け、研究の目的に迫るためには、生徒自身が課題解決のための知識を身に付けたことを実感し、自覚的に用いたりすることができるようになることが必要ではないかと考え、全教科を通じて授業で生徒が自分自身の課題解決の状況を把握し、必要に応じて修正を加えながら解決に向かっていくことができるような授業を目指して工夫しています。そして、私たち教師自身も、多様な考えをもった生徒の様子をよりよく捉えて、さらに生徒が自らの学びを深められるような教師の働きかけのあり方を考え、実践しています。

令和4年度の入学者選考概要について

1 「入学志願者への案内」をHPに掲載 令和3年9月中旬

2 願書請求手続 令和3年10月4日(月)～10月22日(金)

※ 請求手続期間(土曜、日曜、祝祭日を除く)の9:00～12:00、13:00～16:00の時間帯に、**本校事務室にて来ていただき**、関係書類を受領します。

3 出願受付 令和3年10月25日(月)～11月4日(木)

※ 郵便の簡易書留での出願となります。**11月4日(木)を過ぎて本校に届いた場合、無効**となります。ご注意ください。

<出願資格>

下記の(1)～(3)の条件を満たすこと。

- (1) 出願時に、札幌市内に保護者とともに居住している者。
- (2) 令和4年3月に札幌市内の小学校を卒業見込の者。
- (3) 本校の通学に関しては徒歩もしくは公共の交通機関を利用し、通学及び学業に支障のない距離内に居住している者。

※ 本校の始業時刻は、1年を通じて8時35分です。

※ 本校は北海道教育大学の附属校であって、種々の教育上の研究や実践を行います。更に、学生の教育実習の場でもあります。このことを理解し、本校の教育方針に同意のうえ、出願してください。

4 選考日程

令和3年12月11日(土) 午前：学力検査(国語、算数、社会・理科)

令和3年12月12日(日) 面接・集団活動検査(午前・午後に男女別で行います)

5 合格発表 令和3年12月27日(月)10:00

6 入学手続 令和4年1月12日(水)14:00

- ・合格した受検生は、この時間に必ず保護者とともに来校し、入学手続を行ってください。
- ・合格者で入学を辞退される場合は、入学辞退届を必ず提出していただきます。入学辞退の手続は本校で行っていただきますので、1月12日(水)15:30～17:00に、受検生と保護者がそろって本校にお越しいただくこととなります。

入学者選考の手続に関してご質問等ございましたら本校にお問合せください。

(入学者選考担当 または副校長 太田)

また、入学者選考情報は本校ホームページにおいても随時お知らせいたします。

(URL <https://www.hue-fsj.ed.jp>)